

1 / 16

友引 金

旬のもの 伊予柑(いよかん)

蜜柑の一種。ナツミカン系統で、山口県で発見されましたが、明治中期から愛媛県で栽培され、同地方の特産となったため「伊予蜜柑」と呼ばれるようになりました。その後、愛媛産の温州みかんと混同されるため昭和初期に「伊予柑」と改称されました。果実は1個250gくらいで、果皮の厚さは8mmほどと厚くなっていますが、皮をむくのは簡単です。9～11室に分かれ、果心は大きく、簡単に開きます。果肉を包む皮は厚くて堅めですが夏みかんなどに比べて柔らかく食べやすいのが特徴です。

閻魔詣り

仏教では1月16日と7月16日を「閻魔賽日」と呼び、地獄の釜の蓋が開いて鬼が仕事を休むので亡者も骨休みできるとされています。各地の寺院では、十王図や地獄相変図を拝観できるよう閻魔堂を開帳。昔は奉公人が休みをもらう“やぶ入り”の日でもあったため、多くの参拝者で賑わいました。

囲炉裏の日

「いい炉(1・16)」の語呂合わせから、囲炉裏の愛好家らが制定しました。最近では、囲炉裏を囲んで温かい会話を楽しもうと囲炉裏のある宿が人気を集めています。

1 / 17

先負 土

旬のもの 旗魚(かじき)

カジキ科。真旗魚(まかじき)が正式名で、カジキマグロとも呼ばれます。刺身は厚く切ったほうが味も歯ごたえもよいようです。旬の冬に脂ののった刺身は高級料亭で使われるほど美味しいです。関東では三浦三崎付近で突きん棒という鉾や鉾竿で突き刺してとるメカジキを「突きん坊」といい、珍重しています。

防災とボランティアの日

1995(平成7)年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」を踏まえ、災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動についての認識を深めるとともに、災害への備えの充実強化を図ることを目的に設けられました。全国各地で講演会や展示会等の行事が行われています。

おむすびの日

2000(平成12)年に「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」が制定。食べ物のおむすびを表すだけでなく、人と人の心を結ぶ日を作ろうと全国公募した結果、阪神淡路大震災でボランティアによるおむすびの炊き出しが多くの人々の助けになったことに由来し、震災が発生したこの日が選ばれました。